

## 保存と活用 新たな未来へ

2011年、ローヤル洋菓子店の閉店にともない、本庄市が旧本庄商業銀行煉瓦倉庫を取得し、これからの未来につないでいくことになりました。取得後、早稲田大学に耐震・活用について協力を依頼し、そこから早稲田大学理工学術院建築学科5つの研究室による煉瓦倉庫の保存活用に向けたプロジェクトチームが発

足しました。プロジェクトでは、煉瓦倉庫の歴史的価値の調査や、保存再生活用に向けた企画設計と耐震補強が進められました。また、展示やシンポジウム、見学会など、煉瓦倉庫の周知や市民のみなさんとの活用の活用を考える活動も行ってきました。



1 建物の一般公開と展示企画。要望をカードに書いて張るアンケートを行った  
2 建築専門家による建物の概要と保存修復の必要性が解説された 3 改修工事直前に明治から続く姿の最後の見納めの機会。ミニサイズの煉瓦積み体験など子どもたちも参加 4 改修工事中的の見学会。パネルや現物展示が行われた

### Interview

## 未来へつなぐ積極的で柔軟な活用を

「煉瓦倉庫は、まちの人を支えるために、まちの人たちによって建てられたもの」と話す本橋さん。明治初期、横浜への輸出に限界を感じた諏訪や岡谷の有力な製糸家たちが、高崎線の開通に伴い本庄に進出してきました。そこで、もともとこの地域で絹産業に携わってきた人々を支えるためにできたのが本庄商業銀行であり、煉瓦倉庫。「このまちの歴史からみても、なくてはならない倉庫。煉瓦倉庫が、このまちを、このまちの人たちを支えてきた」と煉瓦倉庫の歴史的価値を話します。

「今回のプロジェクトで一番大事にしたのは、市民のみなさんに煉瓦倉庫の歴史と地域における価値を伝え、一緒にこれから先の使い方を考えてもらうこと。そのために見学会や展示などを重点的にやってきた」。本橋さんは、今回の煉瓦倉庫保存活用プロジェクト内で、実測調査や史料調査を行いながら、改修工事前の見学会や展示、シンポジウムなど、

煉瓦倉庫の歴史や価値の発信に努めてきたと言います。

「煉瓦倉庫は活用するために生まれ変わった。文化財だからと臆病にならず、積極的に柔軟に活用してほしい。活用されなければ、その魅力は落ち、建物の寿命は縮んでいく。煉瓦倉庫をどう未来につないでいくかを、市民のみなさん自身が自由に考えてほしい」と本橋さんは訴えかけます。今回、耐震補強工事が行われた煉瓦倉庫。それは、復元ではなく、これまでの歴史を汲み取った未来への補強。ハード面で生まれ変わった煉瓦倉庫を、これから先だけ未来につないでいけるのか、それは、活用していく私たち一人ひとりの問題なのです。

「どうすれば魅力を最大限に活かせるのか、そういった議論が自由に市民の中で生まれていくことで、その魅力は高まり、未来につながる」と本橋さんは期待を込めて言いました。



早稲田大学理工学術院  
建築学科助手

もとはし じん  
本橋 仁さん

### profile

1986年東京生まれ。2011年に早稲田大学創造理工学修士課程を修了。2013年より同大学建築学科助手。2012年から今回の旧本庄商業銀行煉瓦倉庫保存活用プロジェクトを統括する早稲田大学建築学科の中谷礼仁教授のもと、プロジェクトに参加。

# 感じる、交流する倉庫へ

約2年間の耐震補強工事を終え、4月1日(土)、旧本庄商業銀行煉瓦倉庫は、交流施設として新たに生まれ変わります。1階が交流・展示スペース、2階が多目的ホールになり、赤煉瓦の壁や木組み(キングポストトラス)の美しさ、その歩んできた歴史を感じながら、人と人、人と歴史が触れ合う施設となりました。

### 概要

所在地 本庄市銀座 1-5-16  
名称 旧本庄商業銀行 煉瓦倉庫

利用開始 4月1日(土)～  
開館時間 午前9時～午後7時  
休館日 12月29日～1月3日  
施設 1階 交流スペース、展示スペース  
2階 多目的ホール(利用許可が必要)  
駐車場 14台(身体障害者用1台を含む)  
◎多目的ホールの使用  
利用の方法 展示会、展覧会、発表会、研修会など  
使用料 400円(1時間当たり) 利用の目安 70人  
利用申込方法 施設内事務所で利用申請書を記入し提出  
※開館日(4月1日)前までは、企画課(市役所3階)で予約を受け付けます。

## プレオープン式典、内覧会

日程 3月25日(土)  
時間・内容

午前10時～午後1時 内覧会  
午後0時30分～ オープニングセレモニー  
(弦楽四重奏の演奏)

午後1時～ 式典  
午後2時～ 早稲田大学絹産業資産等  
調査委託研究成果発表会

定員 70人(入場料無料、申込不要)  
※当日は、旧本庄商業銀行煉瓦倉庫の駐車場を利用することができません。徒歩、自転車、公共交通機関の利用にご協力をお願いします。車で来場する場合は、本庄福島病院(千代田1-1-18)の駐車場を利用してください(台数に限りあり)。  
★企画課 ☎ 1157

## 私たちがつなぐ、 これからの120年へ

120年以上前に建てられ、本庄の絹産業、そして経済を支えてきた煉瓦倉庫。変わりゆくもの、変わりゆくまちに対して、旧本庄商業銀行煉瓦倉庫、その建物は、変わらずにその場所、このまちのシンボルとして歴史を刻み続けています。明治29年(1896)から現在まで歩んできたその道のりを、今を生きる私たちが、思い返すことはできません。しかし、煉瓦倉庫を通じて、先人たちの思いや歩んできた歴史を感じることはできます。煉瓦倉庫は、現在に生きる私たちと過去、そして、未来をつなぐ建物なのです。今、新たに生まれ変わり、新たな歴史を歩み始める煉瓦倉庫は、私たちが活かし、ともに歩まなければ、未来につなぐことはできません。私たちは、この歴史的価値のある煉瓦倉庫を活用し、新たな歴史の1ページをつづっていく必要があるのです。120年後の未来、その時代を生きる人たちが今を生きる私たちを、きつと煉瓦倉庫はつないでくれることでしょうか。さあ煉瓦倉庫に出かけましょう。